

今日のトピック 米国の金融政策（2016年3月）

FOMC声明はハト派的な内容

ポイント1 政策金利を据え置き

景気は緩やかなペースで拡大

- 3月15日～16日の米連邦公開市場委員会（FOMC）は、市場の予想通り政策金利（FFレート）の誘導レンジを0.25%～0.50%で据え置くことを決定しました。
- 声明文は、海外経済の鈍化や国際的な金融市場の混乱にもかかわらず、米国景気は緩やかなペースで拡大したと述べました。
- 一方、インフレについては、ここ数カ月で加速したものの、原油価格の値下がりなどもあり、目標値である+2%を下回った状態が続いているとしました。

ポイント2 世界経済・金融市場がリスク

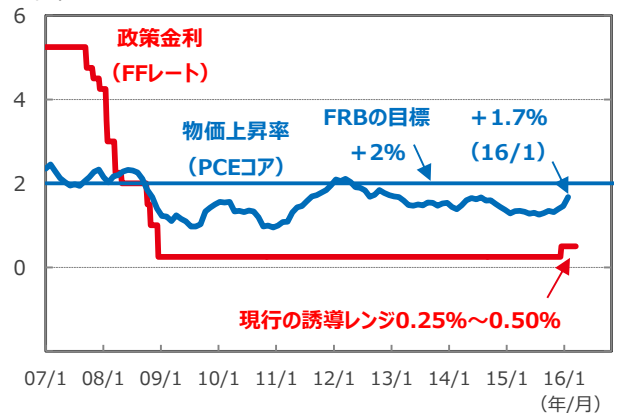
政策金利の見直しを下方修正

- 声明文では、「経済は緩やかな拡大を持続」する見通しとされましたが、「世界経済および金融市場が引き続きリスク」とされました。これが据え置き判断を下した理由のひとつと考えられます。
- 経済予測については、16年、17年の成長率、17年の物価上昇率が小幅に下方修正されました。政策金利の見直しも、前回の年内4回の利上げから2回の利上げに修正されました。

今後の展開 緩慢な利上げ見直し

- 今回の声明文は、全体的にハト派色の濃い内容だったと評価されます。声明文の発表後、米国株は上昇、10年国債利回りは低下、為替市場では米ドルが全面安となりました。
- 利上げペースが緩慢なものになることから、経済への影響は当面のところ限定的と考えられます。外需の不振を個人消費をはじめとする内需の拡大で補い、米国景気は緩やかな拡大を維持する見込みです。

(%) 政策金利と物価上昇率の推移



(注1) FFLレートは2007年1月5日～2016年3月16日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。

(注2) 物価上昇率は2007年1月～2016年1月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

FOMC参加者の経済見直し

項目	開催時期	2016年	2017年
GDP成長率 (%)	2016年3月	2.2	2.1
	2015年12月	2.4	2.2
失業率 (%)	2016年3月	4.7	4.6
	2015年12月	4.7	4.7
物価上昇率 (%)	2016年3月	1.6	1.8
	2015年12月	1.6	1.9
FFレート (%)	2016年3月	0.9	1.9
	2015年12月	1.4	2.4

(注) FOMCメンバー予測の中央値。GDPと物価上昇率は第4四半期の前年同期比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率。開催時期はFOMCの開催月。

(出所) 米連邦準備制度理事会（FRB）の資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2016年 3月 7日 米国の雇用統計（2016年2月）

2016年 3月 4日 米国のISM景況感指数（2016年2月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。